正和電工株式会社の取組

取組のタイトル	避難所に設置する事を目的に開発した仮設公衆トイレ
取組の時期	（始期）令和６年 10 月～　継続中
関連する SDGs のゴール・ターゲット	

取組に指標を設定している場合はその達成状況

指標：自治体や各市町村に使いながら備蓄する事を提案　→現状：0

取組内容

〇いつ来るかもしれない地震等の災害時に備えて、避難所に適した仮設公衆トイレの早期導入を自治体や各市町村の防災担当部長に提案している。

〇水洗トイレが使えない状況が発生した場合、生活環境が劣悪になり、避難所に避難した人のトイレ環境も劣悪になっている事が今年１月に発生した能登沖大地震の際に発生したトイレ現況を多くのマスコミが伝えました。

〇水洗トイレは糞尿が一瞬に水に流されるのでトイレ室内は快適空間になりますが、水が来ないと糞尿の山、トイレットペーパーの山、悪臭の山、になり、トイレを我慢する人が多く出た事で体調を悪化させたと報告されました。

〇ゆえに、水の代わりに普通のオガクズを活用した新型トイレを提案しています。処理能力の大きいバイオトイレをコンテナに４台内蔵した仮設公衆トイレです。学校グランドや公民館、公園や河川敷、道の駅等などに設置し、普段から使用する事でバイオトイレのコンセプトやメンテナンス方法などを理解することが出来ます。

〇災害時に備えた仮設公衆トイレを災害発生時に避難所に移動する事で避難所のトイレ問題は改善する事になりますので、自治体や各市町村の防災担当者に提案し続けています。